

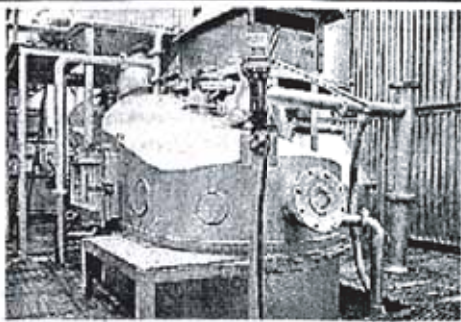
# 日本経済新聞 掲載記事

## 低コストで石綿無害化

### 日本環境保全 小型溶融炉を開発

ごみ処理炉などを開発する日本環境保全(茨城県牛久市、和田力社長、029・874・435

1)は健康被害が問題化しているアスベスト(石綿)を高温で溶かして効率よく無害化する小型炉写真を開発、販売を始めた。価格が従来の溶融炉に比べて大幅に安く、低コストでの処理が可能になる。自治体や民



間の処理会社などに販売する。

開発したのはセ氏約千四百五十度の高温で石綿を溶かしてからガラス状の砂利のように固める溶融炉と呼ばれるタイプ。茨城大学の協力を受けて開発した水と油を混ぜた燃料を使う特殊なバーナーを使用し、安定して高温を保てるようにした。毎時五百キログラムの石綿を処理できる標準的なタイ

プで価格は一基約六億二千万円。低質の油を燃料に使えるので運用コストも下げられ、現在の埋め立て処分と同程度の一立方メートルあたり四万円程度でも処理が可能という。

国内で建築物に使われている石綿は四千三百万トに達するとされる。溶融処理すれば廃棄する場の容積を大幅に減らせるなどの利点がある。新日本製鉄なども廃車から

出るゴミを処理する大型の溶融炉で石綿溶融の実証試験を進めているが、コストが高いことなどが課題になっている。

#### ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談ください。

日本環境保全株式会社